

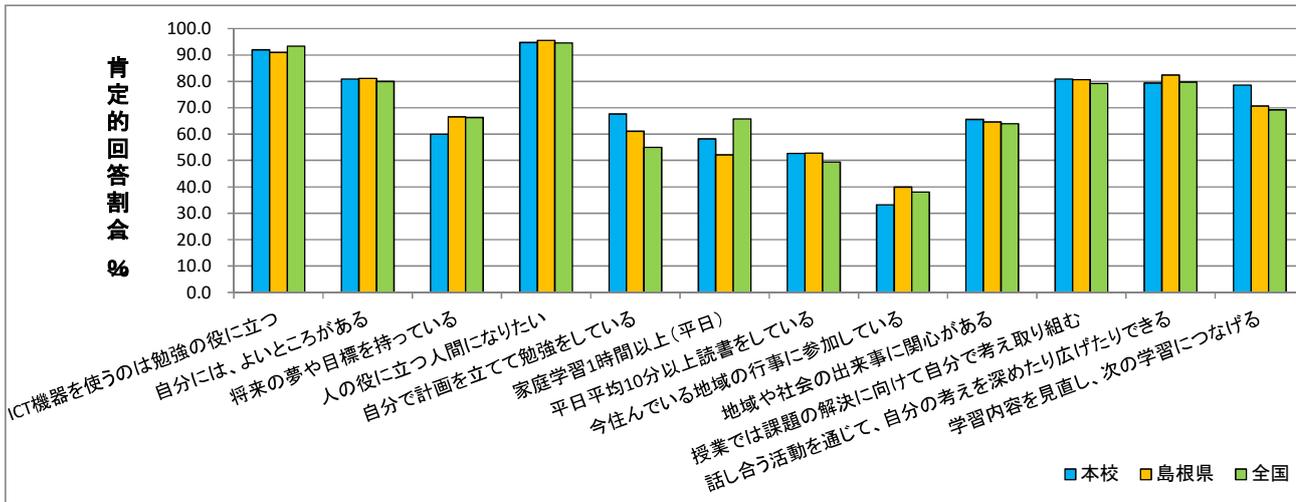
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
国語	○漢字や、心情を表す語句、文語のまじりや意味など、言語文化に関する知識及び技能。 ○記述式問題、特に短答式問題の正答率向上。 ●情報と情報の関係を整理し、文章全体の内容をとらえること。 ●漢字を、調べてきちんと正しく書く意識と習慣の低下。	・読書の充実等、文章を読む機会を増やすとともに、キーワードや中心文、意見と根拠等、情報どうしのつながりや関係を考えながら読むこと、とらえたことを人に伝えること等の学習を設定する。 ・辞書やタブレットを使いやすい環境を整え、わからない漢字はそのままにせず、調べてでも書く習慣を身につけさせる。
数学	○思考・判断・表現の正答率が高く、記述する力がついている。 ○関数をグラフや表、式に関連付けて考えることができている。 ○上位層の生徒が全国平均より多い。 ●ほとんど正答できていない生徒が全国平均より多い。 ●知識・技能があれば答えられる問題の正答率が低い。	・定期的な復習や知識・技能を身近なものに関連付けて考えるようにする。 ・ITを効果的に使い、低学力の生徒の支援を充実させる。
英語	○聞いて情報を処理する力が県平均より高い。 ○比較的短い文の読み取りはできている。 ●自分の意見や考えを書く力が弱い。 ●データが多すぎると処理しきれず答えられない。 ●問題数に対する時間配分の仕方が十分でない。	・一文作文などで自己表現を積み重ねる。 ・単語テストなどの小テストで基本的な語句の知識を身につけさせる。 ・情報処理問題の形式に慣れる。

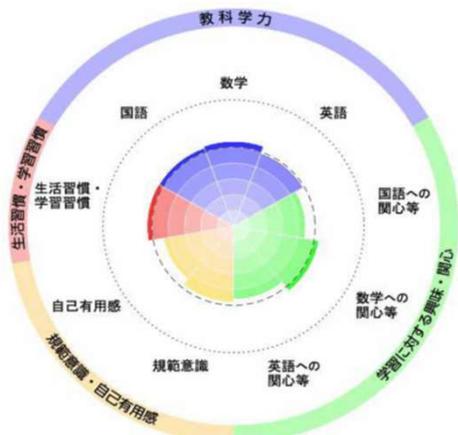
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
質問紙	○学習内容を見直し、次の学習につなげることができている。 ○自分で計画を立てて勉強する生徒が、全国平均より多い。 ●学校の授業時間以外に、1日あたり家庭等で勉強する時間が、全国平均に比べて少ない。 ●将来の夢や目標をもっている生徒が、全国平均に比べ少ない。	・タブレット等を授業だけでなく家庭学習でも効果的に使えるようにして、家庭学習の時間を増やす。また、タブレットドリル等を授業と関連付けて活用できる方法を研修等を通じて校内で共有する。 ・職場体験学習や進路学習を通して、自分自身の強みや興味を発見し、進路について考えるきっかけを増やす。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

「聴く」こと
今年度の研究主題「互いを認め合い、学び合いながら、主体的に行動する生徒の育成～『聞くこと』から『話す・伝えること』につながる人間関係づくり、集団づくりを通して～」と、今年度の千鳥の杜学園小中一貫3項目「1. あいさつができる 2. 相手意識をもって話を聞くことができる 3. 自分の思いを伝えることができる」に共通する「聞く(聴く)」ことを重点項目とし、授業や行事、各活動を行っていく。

【受検者数】
252 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。